

第2号
2003年
7月13日

次回例会のご案内

期日：7月27日（日）

夜7時〜8時半

（於法輪寺）

プログラム

お勤め

法話（話し合い題材）

話し合い

お勤め練習（正信偈草譜）

◎話し合いテーマ

「お盆は先祖供養の

行事なのですか？

「世事に追われる日々、ふと「ひととき」立ち止まって、共に語り合ってみませんか。人としての心のことを。」

*ご欠席の際は役員までご連絡下さい

役員会で
例会プログラムを決めました

7月6日に役員会が開催され、次回例会のプログラムや話し合いのテーマが決まりました。特に話し合いのテーマについてはお盆を間近に控えタイムリーであり、意外と「お盆の意味は？」なことから始まったの？ 門徒としての本当の迎え方は？」と知らないことが多いんですよね。

けれど必ず大切な意味があるはずですよ。一度みんなで話し合ってみましょう。会員の皆様の参加をお待ちします。

お盆の起源

お盆は正式には「孟蘭盆（うらぼん）」といい、この言葉はインドの古い言葉「uilaambana」を音写したもので、その意味は最悪の苦しみから救われるという意味です。これは、お釈迦さまの弟子の目蓮尊者が餓鬼道に落ちた母親を、お釈迦様の導きにより救い出すという「孟蘭盆経」というお経の中に説かれて

お話に基づくものですが、もちろん単なる寓話ではなく、大切な教えが説かれていきます。次回例会でその意味を問い尋ねていきましよう。

私と小鳥と鈴と

私が両手をひろげて、
お空はちつとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面（じべた）を速く走れな
い。

私が体をゆすつても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな唄は知らないよ。

金子みずと

お知らせ

次回例会に年会費千円を持参下さ

(会 計 田 中)

裏面題材法話↓

ある新聞社の宗教に関するアンケート調査結果によれば、若者の宗教に対する思いで一番多かったのが、「宗教は怖い」という答えだったそうです。

本来、幸せを求めていくはずの宗教が、逆に怖いという思いにかられている若者が多いことに今の世の中の問題が反映されていきますが、まず宗教・信仰というものを、利己的な欲望を満たそうとする集団や、狂信的・妄信的でないいわゆるカルト的集団まで、種々雑多のものを一括して呼ぶところに問題があります。

世の中が混沌とすれば、邪宗が生じるのは歴史的な繰り返しですが、時代を超えた真実の教えと、そうでないものとを見極

一つは、救われる者と救われぬ者とがあるといふことを標榜する集団は、まず宗教ではありませぬ。本當の宗教は一切のもの、が救済の対象でなければ、普遍性がありません。二つ目は、救済の条件として世俗的なものを求めるものも宗教ではありませぬ。例えば金品の上納の多少で救われ方が違ふという、人間の欲望の上になり立たせる教えといふのは全く本来の宗教とは反対の方向で、その先には人間としての不幸な世界しかないでしょう。

○懺悔と歡喜の世界

それが宗教です

だいたいこの二つで見極めがつきますが、本當は三つ目が非常に重要で、それは「懺悔と歡喜がともなつたもの」が本當の宗教であるといえます。これは少し難しいのですが、懺悔とは自らを謙虚に省みる心で、歡喜とは

（ 7 月 6 日の役員会での
住職法話より ）